

NEWS WIDE

企業、リスク分散で道央圏に進出

道央圏でリスク分散を図る道外企業

社名	本社	製造品目
不二電子工業	静岡県静岡市	自動車用センサー部品
FJコンポジット	静岡県富士市	半導体放熱材
フジッコ	兵庫県神戸市	カスピ海ヨーグルト・総菜
ユニシス	東京	医療用特殊注射針
中北薬品	愛知県名古屋	液体飲み薬・消毒剤
シーヴィテック	愛知県田原市	無段変速機用金属ベルト

大規模災害に被災して事業が続けられなくなるリスクを軽減しようとして、千歳など道央圏に本社を移転したり新工場を建設する企業が増えている。道央圏は巨大地震や津波の心配が少ない「リスク分散」の適地で、大都市の札幌にも近く労働力を確保しやすいからだ。自治体もリスク分散をキーワードにした企業誘致を進めて、定住人口増加や地域経済活性化につなげる考えだ。

「静岡県から離れた北海道に工場を分散することで、巨大地震のリスクを分散し、お客さまへの納入責任を継続的に果たす」

車載用電子部品を製造する不二電子工業(静岡市)の平田正治社長は12日、自動車用センサーの基

大規模災害少ない適地 労働力確保にも利点

幹部品を製造する新工場を千歳市内に建設すると発表した。需要増が見込まれる自動車用センサー部品を増産するため、新たな生産拠点を探していた。

千歳進出の決め手となったのは、主要取引先のデンソー北海道(千歳市泉沢)が操業していたことに加え、災害リスクの低きにある。南海トラフ巨大地震の発生が懸念される東海地方から離れた北海道に新工場を構えることで、災害に見舞われて生産活動がストップするリスクを最小限に抑える狙いがあった。

東日本大震災の発生以降、道央

自治体も誘致進め経済活性化

道でリスク分散を図る企業の進出が続く。千歳では不二電子工業のほか、携帯電話基地局で使われる半導体放熱材を製造するFJコンポジット(静岡県富士市)が本社と工場を千歳に移し、今春に操業を始める見通しだ。

道によると、北海道の企業立地件数は2013年度に84件とリーマン・ショック前の水準に回復。14年度は昨年12月末までに70件で、このうち19件がリスク分散を目的としていた。

今後30年以内に震度6弱以上の巨大地震が発生する確率は、札幌で1.2%、苫小牧で2.6%、東京(19.6%)、名古屋(45.3%)、大阪(60.3%)に比べて格段に低い。道は「自然災害のリスク分散に加え、首都圏で人材確保が難しくなっていることや人件費の高騰も本道進出の理由に挙げると指摘する。

北広島市では昨年12月、医療用特殊注射針を製造するユニシス(東京)が輪厚工業団地で操業した。生産拠点は埼玉県にあったが、埼玉工場から遠く離れている▽津波、地震の影響を受けにくい▽札幌に近く、人材が豊富であることから北広島に進出した。

このほか中北薬品(名古屋)も輪厚工業団地に4.4畝の土地を取得し、今春にも液体飲み薬や消毒剤を製造する新工場の建設工事に着手する。北広島市企業立地推進室は「札幌から車で通勤できる上、新千歳空港とのアクセスも良いのが特長。企業誘致は将来的なまちづくりにも役立つ」と話す。

千歳市は本州開催の産業展示会への出展を通じ、リスク分散の適地として千歳をPRする。市は災害リスクが低いだけでなく、空港や苫小牧港に近い利便性も千歳の強みになる。道や近隣の自治体と連携しながら、積極的に企業誘致を続けていく(企業振興課)と話している。(村上辰徳)